

# 発達障害幼児への指導

## Treatment of a Preschool Child with Developmental Disabilities

(1996年3月26日受理)

小野 昌彦      平松 芳樹      園山 繁樹      熊代 典子  
Masahiko Ono    Yoshiki Hiramatsu    Shigeki Sonoyama    Noriko Kumashiro

Key words : 発達障害 developmental disability, アセスメント assessment,  
カウンセリング counseling

### はじめに

「自閉症」、「精神遅滞」、「発達障害」という診断名の与える範囲は、研究者、臨床家間で一致していないのが現状である。

しかし、これらの診断名は、たとえ決定されたとしても、その対象者に対する処置、治療に直接的に結びつかないものである。

したがって、重要なことは、障害をもつ人々の社会的自立に向けて、年齢、症状、知的水準等を考慮して、治療教育を行うことである。その際、園山（1995）は、「障害をもつ人の指導や援助の機会、相談援助機関だけではなく、その人の生活場面すべてにおいて、その可能性を考えるべきであり、どのような場面で、どのような指導や配慮を行うかは、検討すべき重要な課題である」と指摘している。

このように、最近の障害をもつ人々を対象とした研究は、その援助目標・方法のアセスメントにあたって、地域社会、関連制度を含む幅広い生活場面状況の把握、過去の深いケースヒストリーの把握から、その治療教育の方法論を選択することを提案している（小林，1980；園山・小林，1994；志賀，1990；望月，1998）。

したがって、その具体的治療教育プログラム及びシステムの構築は、実際の臨床場面での幅広くかつ慎重なアセスメントによって指導された事例検討の積み重ねと追跡研究が必要である。そして小林（1976）が指摘するように、この成果が逆に診断論、原因論の解明に役立つこととなる。

筆者らは、本学の幼児相談室で基本的には、行動論の立場で発達障害女児の指導を行った。大別して、本児の幼稚園入学前、入園後、予後の3期の指導が行われた。形態は、児童面接指導と親面接であった。本児の多くの領域の症状に対して指導・助言が行われた。以下にこの幼児の指導の検討を行う。

## 事 例

### 対象児

女兒 主訴：言葉の遅れ

インテーク時， 3歳2ヶ月（現在， 5歳7ヶ月）

### 家族状況

父， 母， 兄， 祖父， 祖母， 本児。祖父母宅に同居し， 父は自営業をしている。

### 生育歴と来談経緯

出生時体重， 3000グラム。周産期に特記事項なし。ハイハイはせず， 立つことができるようになってからハイハイをはじめた。人見知り， ほとんどなかった。イナイナイバーに， 本児は喜んだ。始歩は， 1歳3ヶ月であった。始語は， 1歳5ヶ月で認められた。二語文は， 2歳7ヶ月頃に認められた。

2歳8ヶ月時， 兄の入学式の日， 祖父母宅に半日預けたところ， 言葉をしゃべらなくなった。以後， 1ヶ月間は， 全く話さなくなり指さしやクレーン行動がみられた。その後， 言葉が回復したがその後の進歩は遅いと両親は感じていた。

2歳11ヶ月時に「言葉が少ない」ことから保健所において発達相談を受ける。その際に発達の遅れがみられることから， 当相談室への相談を勧められ， 2ヶ月後に本学相談室に来談した。

### インテーク時の状況

来室当初の本児の様子及び家での情報は， 以下の通りであった。

1) 行動特徴 発語数は少ないが， 2・3語文発話もみられる。オウム返し発話も多い。排便は， 自立していない。朝， オマルで必ず排便する。「オシッコ」とは言うが， 連れて行っても出ないことが多い。呼んでも返事をしない。ママゴトセットや人形などでひとりでよく遊ぶようになった。最近， 「だっこして」「おんぶして」と近寄ってくるが増えた。

### 2) 検査所見

#### (1) 遠城寺式発達検査

CA： 2歳11ヶ月（図1参照）

#### (2) 絵画語彙発達検査

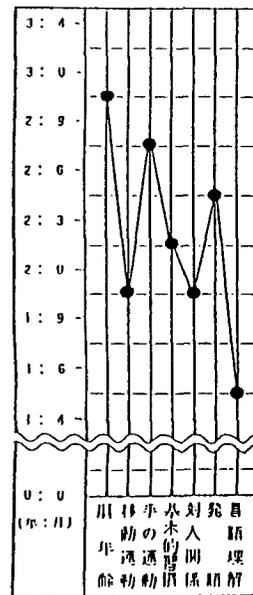


図1 遠城寺式発達検査の結果

CA：4歳1ヶ月 VA：3歳0ヶ月 VQ：73

(3) 知能検査

平成7年初めに母親によると児童相談所で「3歳くらいの知能」といわれたとのこと。

(4) EEG検査 平成6年末に実施し後頭部に異常が見つかり以後服薬している。

面接の基本方針（平成5年9月～平成7年1月）

第1～3回の面接は、担当者1名（臨床心理士）が、親子に面接した。第4回より児童面接を担当者1名、母親面接を担当者1名（臨床心理士）が行った。面接は、原則的に月2回、土曜日午前中に1時間行った。表1に面接の実施状況を示す。

表1 面接状況

| 年  | 93 |    |    |    | 94 |   |   |   |     |    |    |    |    |    |    |    | 95 |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|---|---|---|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
|    | 9  | 10 | 11 | 12 | 1  | 2 | 4 | 5 | 6   | 7  | 9  | 10 | 11 | 12 | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 期  | I  |    |    |    | II |   |   |   | III |    |    |    | IV |    |    |    | V  |    |    |    |    |    |    |    |
| 回  | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6 | 7 | 8 | 9   | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 児童 | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● | ●   | ●  | ◎  | ●  | ●  | ◎  | ◎  | ●  | ◎  | ●  | ◎  | ●  | ●  | ○  | ○  | ●  |
| 母親 | ●  | ●  | ●  | △  | △  |   | △ | △ | △   | △  | △  | △  |    | △  | △  |    |    |    | △  | △  | △  | △  | △  |    |

●：Th, ◎：Thの子ども2名, ○：Thの子ども2名, △：Co

1) 児童面接の方針

プレールームで、本児が好む遊具や教材（ままごと用ミニチュア、絵カード、カラーリング等）を用いて、本児と治療担当者（以下 Th と略記する）の相互作用と発話が増加するようなかかわりを努めた。不適切な行動（奇声、オウム返しなど）に対しては、その機能をまず理解するように努め、その状況に応じた対応をする。また、平成6年5月から幼稚園入園後、かかわりが予想される年齢の子どもとのかかわりを育てることを目的に、月1回（第2土曜）Thの子どもを参加させた。

2) 母親面接の基本方針

母親は、本児のちょっとした行動に不安を抱きやすく、母親面接の際にはそれらの不安を受けとめつつ、本児の行動を客観的に理解できるように助言した。

3) その他

父親も本児の面接を参観させた。希望があれば、母親の面接に同席させ、かかわりを助言する。

面接経過

1) 児童面接

計24回の面接を行った。そのうち7回は、Thの子どもも参加させた。児童面接担当者の他に学生も数名参加し、ワンウェイミラーからの観察や時には、補助者（以下 ST と略記する）とし

てセッションに参加することもあった。以下、5回ずつの5期に分けて経過をまとめる。また、活動ごとの変化については、表2にまとめた。

表2 児童面接における活動ごとの変化(子ども同士のセッションは除外)

| 活動期               | I(1~5)   | II(6~10)  | III(11~15)   | IV(16~20)   | V(21~24)  |
|-------------------|--|---|--|---|---|
| 絵カード              | ①模倣で時々OK<br>④Th「これは？」<br>→C「いすわってる」<br>「ご飯食べとるよー」<br>⑤命名→並べる→カルタとり(集中)   | ⑥命名不可の時Th「お父さんに聞いてきて」<br>→C「聞いてきていて」(エコ)<br>⑦自分でカード箱を机上へ持ってくる<br>⑧Th入室前に、机上にカードを並べる。動物(NR)、「はく物」(NR)「頭にかぶる物」(OK)、「ニャオと鳴くもの」(OK) | ⑫動作のあるカード。C「滑り台」といって、Fの膝で滑る。「食べ物」(OK)、「動物」(OK)<br>⑬主語-述語(時々OK)。「遊ぶ物」(OK) | ⑮主語-述語「お兄ちゃんがボールしよる」,「木に登ってる, 兄ちゃん」<br>⑯「お兄ちゃんが木に登ってる」『お兄ちゃんがサッカーボール』お兄ちゃんが走りよるよ』                 | ⑭主語-目的語-述語「お母さんがニンジンをぎっている」『お兄ちゃんが木に登ってるよ』(何枚もしようとす) ⑰箱の中に10枚だけにしておく(こだわりなし)  |
| 果物ミニチュア           | ①食べる真似。机上に並べる<br>③1つのかごから別のかごに全部移す<br>④出しながらC「これは？」を頻発。Thが命名すると模倣。Th「〇は先生」『〇はお父さん』→正しく渡す<br>⑤自分で「これは〇〇」と命名も増える | ⑦「これする」とかごを出す。『お兄ちゃん並べて』。「これ」とThに食べさせる。<br>⑧「お父さんにバナナ」とFに持って行く。『お風呂に入る』とかごに入る。『お風呂に入ってたかったです』                                   | ⑬「あ、これ、チーズも入ってる」柿, お父さん食べる』  |   |   |
| 分銅さし              | ②バラバラに入れるが、Thが指さした穴には入れる。<br>③自分で机に持ってくる。うまく入らないが集中。方付けも自分で<br>④試行錯誤で全部正しく入れる。                                 | ⑥Th2本出して「大きい(小さい)の入れて」(はばOK)<br>⑧1組が終わると、自分でもう1組持ってくる。<br>⑩「長い(短い)の入れて」(OK)   |  |   |   |
| カラーリングさし          | ②2色を分類する(OK)<br>③自分で机に持ってくる。4色を分類(OK)片付けも自分で<br>⑤Th「これは-〇〇」→C命令or模倣→入れる(OK)                                    | ⑥色命名「緑」「黄色」(OK)<br>⑧色命名「赤」「青」(OK)全部入れた後、一本ずつ取り出し、色毎にまとめる<br>⑨Thサイコロをふって、出た色を入れさせる。<br>⑩Th「〇〇入れて」(OK)                            | ⑬交互にサイコロをふる→入れる(リングは全部Cが入れたがる)→奇声・リングで頭をたたく                              | ⑮交互にサイコロをふる→交互に入れる(イライラしなくなった)  | ⑰自分だけで入れようとする(奇声)   |
| ママゴトセット&車などのミニチュア | ②車を並べる。コップを皿の上に置く。木を並べる(集中)<br>④「お茶」Fへコップを持っていく  | ⑥ブロックを積む「おうちできた」トントントン(トンカチでたたく)  | ⑯Th「お茶下さい」→C急須にいたおハジキをコップに移す   | ⑰「これ早くやってよ」(粘土をThへ差し出す)C「ご飯炊くよ」ドーナツもしましよ」『しまいまーす』<br>車を並べる。動物や木を持ってきて、車に乗せたり、並べる。片付けながら「遊ぼー、また今度」 | ⑰車と人形を並べる「これは〇〇ちゃん」『お父さんもここにいる』『お兄ちゃんも入る』<br>⑲30分間STと遊ぶ。Th「お姉ちゃん遊ぼうよって、呼んで来て下さい」→「ママゴトで遊ぼーよー」『おねえちゃん切って』, ST「お茶入れましたか」→「はい」,「はいもう片付ける」,「ごちそうさま」, 園山先生」とThへ来る。「また今度ねー」とThを見る。Th「カルタしようか」→もう終わり」と帰ろうとする |

### 第Ⅰ期（第1回～第5回）

プレイルームの入室には、抵抗なく、第1回目より、果物のミニチュアのママゴトセット等で本児なりに想像的な遊びをしていた。第1回目には、自分の思い通りにいかない時に手を額にやる行動がみられた。STは、目線がほとんどあわないという印象を持った。2, 3語文もみられたが、オウム返しの発話が多かった。

第3回目より、前回やった遊具を自分で机の上に持ってきたり、棚にしまう行動が見られるようになった。

第4回目より言葉が増えたが、発話のトーンが高いのが特記される。絵本では、「これは？」とThが尋ねると「いすすわってる」「ごはんたべとるよー」と答えることもできた。この期では、本児の好む遊びを通してのThとのかかわりが形成された。

### 第Ⅱ期（第6回～第10回）

絵カードが、本児のお気に入りの活動となり、ほぼ毎回、最初に自分からカード箱を机の上に持ってくるようになった。第6～8回は、特にオウム返しの発話が多かった。

第7回目の前日に、母親が、「明日は、大学行く日だね」というと、本児は、大変喜んでいたのであり、以降も来室を喜んでいる様子であった。第9回目からは、オウム返しも以前より少なくなり、行動が落ち着いてきた。

### 第Ⅲ期（第11回～第15回）

第11, 14, 15回には、Thの子ども2名（小学1年と幼稚園年少の女兒）をセッションに参加させ本児と遊ばせた。第11回では、父親と兄も前半は同室させたこともあり、本児も抵抗なかったようである。マットの上に果物のミニチュアを置くと3人で遊んでいたが、やり取りは余りなかった。第14回では、自分でマットを敷いたり、一緒に棚を探すなど、他児を意識した行動がみられた。木馬に他児と乗り、「着いたよー」といった場面にあった発話もいくつかみられた。

第12回のカラーリングでは、Thと交互に入れさせようとするや奇声や頭をたたくなどがみられたが、本児に入れさせるとおさまった。

第13回では、女子学生とも一緒にママゴトやカラーリングが同様にできた。

### 第Ⅳ期（第16回～第20回）

第17, 19回は、Thの子ども2名が参加し、子どもどうしのセッションとした。他児に引っ張られて木馬に乗ったり他児のママゴトをじっとみていた後にその子の近くで遊んだ。（かかわりは少ないが、遊びの輪の中に加わっているようにみえた）。途中からThが参加するとThとのかかわりが増える。

第16回からは、イントネーションが、普通の発話が見られるようになった。また、1つの遊び時間が少しずつ長くなった。

## 第Ⅴ期（第21回～第24回）

第22, 23回では、幼稚園年少の女兒（4歳9ヶ月）のみ参加させた（Thも必要に応じて参加）。第22回では、犬棒カルタをThが読み、二人にとらせる（二人とも平仮名がわかる）。本児は、他児がとると「アー、アー」と奇声をあげるが取り上げたりはしない。興奮気味に参加する。他児をみなかったが「あそぼ、これで」と発声した。Th：「Yちゃん呼んで来て」→「Yちゃん」と声掛けに行く。第23回では、本児が先に入室しThらがはいると「おはよー」というと「おはよー」と答え、自分からも他の人に挨拶する。紐通しを二人で並んでしながら、「Yちゃん」と呼びかけた。Yが絵カードを本児に渡し、本児が命名する。

第24回では、はじめてのST（女子学生）と30分間ママゴトをした。会話もやり取りもかなりみられた（STは、本児の行動に合わせてるように努めた）。前日に母親が、「明日は大学よ」というと、「Yちゃんと遊ぶ」と楽しみにしていたとのことであった。

### 2) 母親面接

来談第4回目から、プレイルームに隣接した部屋で、母親とのカウンセリング面接を計16回にわたって行った。以下では、上記の各期ごとにまとめた。

## 第Ⅰ期

家族関係をはじめとして、本児の行動特徴について話してもらう。母親面接担当者（以下Coと略記する）はあいづちをうちながら傾聴していると、父親の本児への接し方、兄の小学校でのことや、妹への態度のことなど次々と気になることに話題が展開する。本児のことでは、言葉の遅れの問題や、気になる癖などがあるが、特に車の中で斜光がはいり、埃がみえて以来、「ほこりばいばい」とか「ほこり、いたい、たすけて」等と言うのが気になる。父親は、いらいらして「怖くない」と怒るそうである。また本児が、子ども集団で仲間にいれてもらえないので、ひとり遊びをする事も気になっている。

## 第Ⅱ期

前半（第7, 8回）では、特に本児が、ほこりを怖がることと、毎晩、「トイレに行こう」ということを気にしていた。Coは、どちらも自分にかまって欲しいためにする「注意引き」の行動と考えられると話して両親の本児への接し方の工夫を助言した。母親自身の自律神経失調症のことも詳しく話す。現在は、ほとんど症状はなく、薬も飲まない。1ヵ月か2ヵ月に一度は、通院している。妊娠中に服薬していたことが、この子に悪影響のた原因ではないかと、夫の親から言われたと気にしている。週1回通うことにした通園施設のことについても話した。

後半（第9, 10回）では、本児が埃のことを話題にしなくなったので両親は安心した。しかし、トイレをいやがりだして遺尿もある。Coは、汲み取り式トイレで下がみえて怖かったり、暗い雰囲気などを改善すること等助言した。その他、着替えなどの生活習慣で両親の意見があわないこと、

兄妹関係のトラブルについても、関係調整の助言をした。

### 第Ⅲ期

本児の生活習慣や友だち関係などに少しずつ進歩がみられることの話があった。兄も妹が背中に馬乗りになっても許すようになり、兄妹関係が良くなったこと、本児の言葉の内容が豊かになったことがうれしいと話す。

しかし、家のトイレでしないで庭など屋外でしかしないこと、夜驚があらわれてとまどうことがある。夫が勤務していた会社をやめて、祖父母宅に同居し、自営することになった。母親は、父と子どもが接する時間が増えたことと好意的にとらえている。

### 第Ⅳ期

本児の言葉の発達を喜ぶ。例えば、オウム返しが少なくなり、対話的な会話が増えたこと、通園施設での他児との交わりがうまくできるようになったことなどである。以前に会っていた保健婦さんが「昨年とは、人が違うみたいだ」と成長ぶりを評価してもらい喜ぶ。

兄の小学校での様子、夫が自営となってからの生活の変化の様子なども話す。妊娠7ヶ月の母親のお腹をたたきにくる。出産後の姉としての役割を話して、弟妹への嫉妬心の軽減を助言する。幼稚園の入園が話題となる。

### 第Ⅴ期

第22回からは、母親面接に父親も同席してもらうようにした。幼稚園は、細かく面倒をみられると評判のミッション系私立幼稚園に願書を出したいと話す。短大とも関係があるので相談室のことを話しておくことを勧める。第23回には、幼稚園から入園許可が出たと話す。いずれ相談室から出向くことも可能であると話した。言葉は、急激にのびている。しかしまだ、トイレにはいきたがらない。朝の寝起きが悪く、ボーとしている時間が長いので心配して大学病院で脳波を調べてもらった。後頭部から引きつけの波形が出ているといわれ、服薬している。寝つきが良くなった。

## 幼稚園入園前の相談面接の考察

### 1) 児童面接

#### (1) 児童理解について

発達検査の結果により、本児は軽度の発達遅滞を伴うと考えられる。また、大人や子どもに対しての関心やかかわりが乏しく対人関係の質的な障害が伺われ、2歳8ヶ月頃にクレーン行動がよくみられるなど、自閉的な行動傾向もいくつかみられた。例えば、DSM-III-Rの自閉性障害の項目で該当するのは、ア) 社会性のいる遊びの欠如、イ) 仲間関係を作る能力の著しい不足、ウ) 会話の仕方に著しい異常（かん高い声、抑揚）等が顕著であり、その他の項目も顕著とは言えないまでも該当すると考えられるものがいくつかあった。しかし、自閉性障害

というほどには、顕著な障害とは考えられず、「特定不能の広汎性発達障害」と考えて良いのではないかと思われる。

しかしながら遊具や玩具に対する自発的な関心や、乏しいながらも Th などに対する関心や働きかけはあり、いくらか特異な行動傾向を持つ4歳児というとらえ方でかかわりをもっていた。

## (2) 児童面接について

前述の基本方針に沿って指導が行われた。その中で、本児が好む活動として、絵カード、カラーリング、ママゴトセットなどが継続して用いられた。それも、本児自ら棚から出してきたり、しまったりするようになった。これは、プレイルーム内での行動が、まとまりのあるものとなってきたことを示しており、来室を楽しみにしていることにもつながっていったと思われる。

インタビュー時と比べ、言葉の発達や行動のまとまりや他者への働きかけという面ではかなりの成長は、認められる。しかし、軽度の発達遅滞があることによって適応上の問題が、幼稚園入園後もいろいろな面で出現することが予想され、本相談室の相談面接は、今後も継続することが必要である。

## 2) 母親面接

母親は、おだやかで教養がある人という印象である。繊細で自分の体調やこどもの些細な行動の変化にも敏感である。話し方は、静かな調子であり、あまり質問をしなくても次々と話し、話題が豊富であると感じた。面接当初は、些細なことも随分気にしたり、毎週訪問する夫の両親からの言葉も気にしていた。あまりに責任感を感じすぎることへの助言、母親の言う本児の「異常行動」への具体的対処のアドバイス、二児の母親としてよく努力されていることへの支持などをつけた。

本児へのセラピストの指導に信頼を寄せ、予約時間に遅れることもなくきちんと来談された。本児の言葉の発達がめざましく、社会性も成長してきたので、母親としてもまだ少しあせることもあるが、落ち着いてきて、本児に受容的となってきたことが考えられる。

最近(第21回)の母親の「この子がいるから、勉強になります。兄の時には、全然考えもしなかったことが考えられます。」という言葉が印象深い。

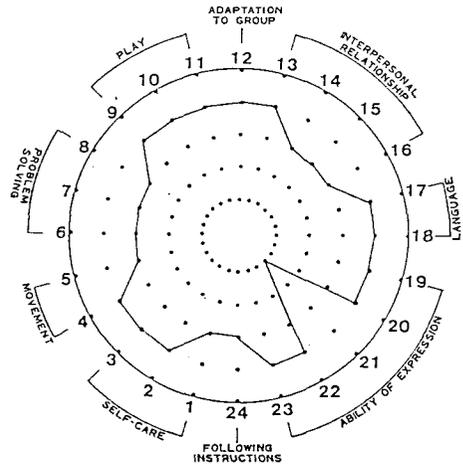
## 幼稚園入園後の指導(平成7年4月～平成8年12月)

この時期の指導は、平成7年4月～12月まで月1回、土曜日午前中に1時間おこなわれた。児童面接を行っていた Th が、1名交替した。親面接は、引き続き同担当者が行った。児童指導は、Th が、1名と他に幼児教育科学生が、補助をおこなった。他に Th 1名がプログラム構成、及び親面接、児童指導に適宜加わった。本児の生活環境が、幼稚園入園で変化したので、登園維持を当面の目標として、再情報収集により行動アセスメントが行われた。

行動アセスメント

(1) 幼稚園入園以前までの本児の行動特性

平成7年5月13日に T-CLAC が実施された。その結果を図2に示す。T-CLAC は、幼児期自閉症児の発達水準及び自閉症状の改善度を9領域5段階でチェックするものである。表3に T-CLAC の領域、項目を示す。この時点では、身辺自立領域の食事習慣、運動機能領域の動作模倣、課題解決領域全般、対人関係領域全般が、3段階、書く能力が1段階であった。対人面に関しては、登園前の当相談室の児童面接において、6回、幼稚園年少の女児との接触がある。本児の好む遊びを通してのやり取りが形成されていた。本児は、当幼児相談室におけるこれらの児童との接触を楽しみにしていたという。



平成7年5月13日

図2 A.T.児の発達状況 (5月13日実施T-CLAC)

表3 T-CLAC (小林, 1980より転載)

| T-CLAC           |          | 1.                             | 2.                          | 3.                                 | 4.                         | 5.                             |
|------------------|----------|--------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|----------------------------|--------------------------------|
| 身<br>辺<br>自<br>立 | 1 食事習慣   | 食事に無関心、すべて食べさせてもらう             | スプーン、はしを用いず、手づかみなどで食べようとする  | スプーン、はしなどを、何とか使う。好き嫌いが強度である        | スプーン、はしなどを使える。好き嫌いは顕著ではない  | 自ら食事できる。主食と副食をある程度バランスをとって食べる  |
|                  | 2 排泄習慣   | オムツ使用                          | 教えることもあるが、常に注意しなければならない     | ほとんど教えるが衣服の着脱や始末などに手伝いが必要          | 一応自分であるが、時々失敗する            | ひとりで始末できる。排尿・排便とも              |
|                  | 3 衣服着脱   | 全面的に介助を必要とする                   | ひとりで脱げるが、着られない              | スナップがはめられる。ジッパーがしめられる              | ボタンもはめられる。時に、または部分的に援助を要す  | ひとりで着脱ができる                     |
| 運<br>動<br>機<br>能 | 4 運動能力   | フラフラしたり、発作的な動きで、まとまりがまったく見られない | 基本的動作(立つ、歩く)は一応できる          | 歩く、立つなど、基本的動作は正しくできる               | 走る、とぶ、投げるなどの基本的運動はできる      | かなりまとまった運動ができる。簡単にルールに従うことができる |
|                  | 5 動作模倣   | 他人のやることを見習う意志がない               | まねようとする意志は見受けられる。単純動作1~2種類  | 身体の一部の動作あるいは、身体全体の動作を部分的にまねることができる | かなりよくまねることができる             | すべてについて、年齢相応にまねることができる         |
| 課<br>題<br>解<br>決 | 6 自発性    | 自発性は認められない。すべて無目的な反応           | 無目的ではあるが、突発的に場面に適切な反応も認められる | 特定の興味、要求に基づいた場面において、しばしば認められる      | 慣れた環境において、かなりよく適切な反応が認められる | 一般的な環境の中でも、適切な自発的反応が認められる      |
|                  | 7 課題解決意欲 | 課題そのものが無意味である                  | 簡単な課題には応答できる(やりとり反応、マッチング)  | 基本的課題に注目し操作する(4片以上のパズル、言語指示による課題)  | 多くの訓練課題に注目し、取り組もうとする       | 訓練課題以外の課題にも注目し、何とか果たそうとする      |

T-CLAC

1. 2. 3. 4. 5.

|       |                 |                      |                                      |                                 |                                     |   |
|-------|-----------------|----------------------|--------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------|---|
| 課題解決  | 8 課題解決能力        | 課題を理解できず援助によっても果たせない | 簡単な課題を果たすことができる                      | 基本的課題を果たすことができる                 | 多くの課題を理解して果たすことができる                 | 訓練以外の課題もある程度、果たせる                       |
| 遊     | 9 テレビについて       | 関心がない                | 消すと怒るが、見ていない。CMなら見る                  | CMや特定の番組のみに固執して見ている             | CMや特定の番組のほかに、子ども番組も見ている             | 子ども番組を喜んで見ている(限定されずに)                   |
|       | 10 大人との遊び方      | 無視、さける               | 誘われても遊べない                            | 誘われれば遊べる                        | 相手を誘って遊ぼうとする                        | 相手を誘うし、誘いにも乗ってくる                        |
| び     | 11 子どもとの遊び方     | 無視、さける               | 誘われても遊べない                            | 誘われれば遊べる                        | 相手を誘って遊ぼうとする                        | 相手を誘うし、誘いにも乗ってくる                        |
|       | 12 集団適応能力       | 集団へ関心を全く示さない         | 集団をある程度意識しているが、身勝手な行動が多い             | 小集団の中では、適切な行動がとれることが多い          | 大きな集団の中で部分的に適切な行動がとれる。何となくまざる       | 大きな集団の中でかなり適切な行動がとれる                    |
| 対人関係  | 13 家族の大人との関係    | 無関心、無視、さける           | たまに適切に反応する。ハンドリングによる要求               | 自分のペースに合わせてもらえば相互作用できる          | 特定の人の要求には反応したり、働きかけたりする             | みんなとほぼ適切に交流がある                          |
|       | 14 兄弟姉妹との関係     | 無関心、無視、さける           | たまに適切に反応する。ハンドリングによる要求               | 自分のペースに合わせてもらえば相互作用できる          | 特定の人の要求には反応したり、働きかけたりする             | みんなとほぼ適切に交流がある                          |
|       | 15 他人との関係(大人)   | 無関心、無視、さける           | たまに適切に反応する。ハンドリングによる要求               | 自分のペースに合わせてもらえば相互作用できる          | 特定の人の要求には反応したり、働きかけたりする             | みんなとほぼ適切に交流がある                          |
|       | 16 他人との関係(同年輩者) | 無関心、無視、さける           | たまに適切に反応する。ハンドリングによる要求               | 自分のペースに合わせてもらえば相互作用できる          | 特定の人の要求には反応したり、働きかけたりする             | みんなとほぼ適切に交流がある                          |
| 言語    | 17 言語(自発的)      | 音声なし                 | エコラリアは見られるが応答にはならない                  | 場面にそぐわない発言も多いが、時には応答言語が見られる     | 大人とはある程度応答できる                       | 同年輩の子どもとも通常の応答はできる                      |
|       | 18 言語(訓練過程)     | 音声なし、母音といくつかの子音が出る   | いくつかの音の連音、簡単な単語のエコラリア(要求言語はいくつか見られる) | 援助すればある程度命名できる。エコラリアの確立         | 2語の結合、助詞もある程度使用可能、援助なしに多くのものの命名ができる | ほとんど応答の形をとることができ。アクセント・エコラリアの問題は、わずかである |
| 表     | 19 弁別能力         | 弁別することはできない          | 具体物による弁別ができる                         | 単純な形や原色による弁別はできる                | やや複雑な形や中間色の弁別ができる                   | 複雑に形や用途による弁別ができる                        |
|       | 20 読む能力         | 文字に頓着しない             | 読めないが、文字であることはわかっている                 | 発声できないが文字がわかっている                | 特定の文字がわかっている                        | 意味がわかってそれが読める                           |
| 現能    | 21 書く能力         | 文字らしいものは書けない         | なぞり書きができる                            | 見て書くことができる                      | 音声を文字で表すことができる                      | 表したいことを文字にできる                           |
|       | 22 絵画製作(その1)    | 材料に頓着せず、描こうとしない      | なぐり描きができる                            | 線描きで一応ままとったものが描ける               | まとまったものが描ける、彩色できる(1~2色ほどのものでもよい)    | 物と背景を描ける。何種類かのものを描ける                    |
| 力     | 23 絵画製作(その2)    | ぜんぜん何も描こうとしない        | なぐり描きで形はなさない                         | いくつかの部分が指示の下に描ける                | 指示すれば一応人間の形となる                      | 指示しなくても人間の形を描くことができる(5~6歳水準)            |
| 指示に従う | 24 指示に従う能力      | 指示に従うことはほとんどできない     | 禁止、制限などは強制すれば従うことができる                | 禁止、制限だけでなく興味や要求にそった指示には従うことができる | 興味や要求にそったものだけでなく、一般的な指示に対しても従える     | 一般的なものに対してはかなりよく従うことができる                |

(2) 全般的症状の変化

本児の主訴は、言葉が少ないことであった。本児の家族は、2歳8ヶ月時まで本児の言葉に特に関心を払っていない。2歳8ヶ月時に祖父母宅に半日預けた後、言葉が少なくなり、その状態が1ヶ月続いた。平成6年6月に父親が、勤務を自営として祖父母宅に同居した。母親の報告によると父親と本児の接触時間が増加したという。また、対話的な会話が増えたことが報告されている。したがって、経過を見ると、父親との接触時間が、本児の言葉に大きく関係しているといえよう。

(3) 幼稚園場面の状況と本児のレパトリーとの関連

幼稚園入園に際してのミニマム・エッセンシャルズ(小林, 1977a)として着席の持続, 身辺処理の自立, 簡単な指示に従うの3点が挙げられる。本児は、入園までの時点で簡単な指示に従うことが可能であった。また、T-CLACによると身辺自立は、3段階であった。着席行動は、セッション時に時々みられたようである。当幼児相談室では、治療担当者、年齢の近い幼少女児とは抵抗なく接していた。ママゴト遊び、絵カード、果物ミニチュア、カラーリングさし等の遊びは行える。

(4) 家庭内での行動

本児の生育史における大きな特徴は、父親との接触時間が多かったことである。母親は、第1子の兄出産後、自律神経失調症となり2ヶ月服薬していた。その間、主に、父親が本児を養育していた。したがって、母親にとって、第2子の本児は、初期から養育するはじめてのこどもであった。現在、父親は、自営業を営み祖父母宅に同居しており、本児との接触時間は増加している。

(5) 幼稚園と当相談室との連携

幼稚園は、障害を持つ児童を細かく面倒を見る方針のミッション系私立幼稚園である。当相談室との連携は、可能である。

指導方針

治療教育目標は、長期的には、一般社会の中での自立であり、短期的には、「同一年齢の一般児童の集団に適合し、その集団の中で適切な役割を得て、行動できるようになるために援助すること」(小林, 1980)である。

アセスメントの結果、基本的には、登園前の指導方針を踏まえ以下の点がつけ加えられた。

- (1) 課題学習場面を構成し、課題学習のスキルを形成する。
- (2) 治療担当者及びスタッフとのバーバルまたはノンバーバルコミュニケーションによる相互作用を増加させる。
- (3) お絵描き、書字のスキルを動作模倣から形成する。
- (4) 幼稚園教諭と連携をとり、本児の無理のないところから登園させ、観察学習の機会を増加させる。
- (5) 母親に、本児に対する家庭でのかかわり方(特に身辺自立)を助言する。また、母親に、ワン

ウエイミラーから本児と治療担当者とのかかわりを観察させる。その際、専門家が同席して治療担当者の遊びや訓練の仕方に説明を加える。

### 指導経過

登園後の指導は、平成7年4月～12月までの児童指導と親面接（7回）と平成8年3月9日の予後指導（1回）であった。

#### 1) 児童指導の経過（第1回～第7回）

平成7年4月～平成7年12月までの本児の指導経過を表4及び表5に示す。

表4 本児の指導経過と変化(1)

|        | 4月15日   | 5月13日        | 6月29日                              | 7月22日                | 9月9日                  | 10月28日 | 12月9日 |
|--------|---|--------------|------------------------------------|----------------------|-----------------------|--------|-------|
| パネル遊び  | C→Thに名前を言いながら渡す。<br>Th→Cに渡すとCが名前を言う。<br>止めないで続ける。 | セッションの最後に行く。 | 自分でカードを選びThに名前を尋ねる。                | 選んだカードだけ言うとCの動きがとまる。 | 箱から1枚ずつ名前を言いながらThに渡す。 |        |       |
| ママゴト遊び | じゃがいもクッキーをつくる。<br>Thに包丁の使い方を教わり粘土を切る。             |              | まな板上で粘土を切り、ご馳走をつくる。<br>「カットパン」という。 |                      |                       |        |       |

表5 本児の指導経過と変化(2)

|       | 4月15日 | 5月13日                            | 6月29日 | 7月22日                  | 9月9日                          | 10月28日      | 12月9日             |
|-------|-------|----------------------------------|-------|------------------------|-------------------------------|-------------|-------------------|
| 木の玩具  |       |                                  |       | トラックに動物をいっぱい乗せ、家の中に運ぶ。 |                               |             |                   |
| 電車ごっこ |       | 刀とバットをもって「鬼退治に行きます」といって、シーソーに乗る。 |       |                        | ぬいぐるみをシーソーに乗せる。<br>Thをお弁当に誘う。 |             | 刀をもってThを追いかける。    |
| 描画    |       |                                  |       | クレヨンによる描画。             | きのこの絵と文字をクレヨンでかく。             | 男子と女子の絵をかく。 | イカ、タコの絵をかくとThと話す。 |

課題学習は、本児の好む遊びを中心に行われた。セッション中、徐々に座席についての活動時間が増加していった。

正座の姿勢でカード遊び、ママゴト遊びが行われた。カード遊びでは、最終的に、命名は、100%正答であった。ママゴト遊びは、主に、ThやSTとのかかわりの増加の為にされた。全

員のThとままごとのかかわりをもてるようになった。

電車ごっこは、多くの行動レパトリーの行動連鎖があり、物語性があるものである。

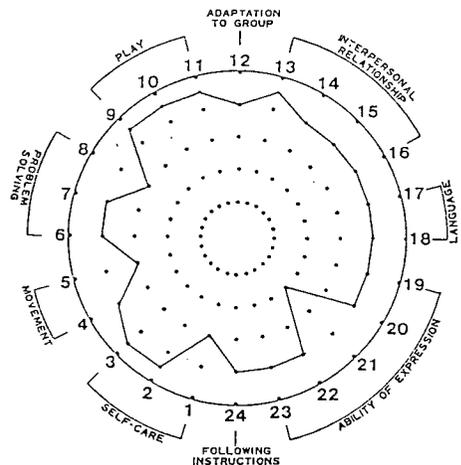
本児は、この連鎖の中でThを誘う行動、またThを追いかける行動が形成された。

お絵描きでは、Thとのやりとりを形成しながら人物画の表出も目的とした。10月28日の指導時に人物画の表出が可能となったのでDAM（小林，1977b）を実施した。図3にDAM描出画を示す。IQは、98であった。

図4に平成7年9月9日実施のT-CLACの結果を示す。前回と比較して課題学習領域，対人関係領域，遊び領域が，1段階向上していた。



図3 A.T.児の描出画（DAM）  
平成7年10月28日



平成7年9月9日

図4 A.T.児の発達状況  
(9月9日実施T-CLAC)

幼稚園での状況は、親面接からの情報と幼稚園担任に記録を依頼した「幼稚園での曜日別参加状況記録表」から把握された。この記録表とその記入例を表6に示す。活動参加率は、園での活動を各1単位として、下記の式により集計された。

$$\text{活動参加率} = \frac{\text{参加活動数}}{\text{全幼稚園活動数}} \times 100$$

入園当初は、1日おきぐらいの頻度で登園日の朝、本児が、しぶりを訴えた。両親がなだめ、車に乗せるとおさまったそうである。その後、このしぶりはおさまったそうである。

平成7年4月～12月までに明確な理由の欠席（発熱，相談期間への通所）以外は、活動参加率は、100%であった。

## 2) 父親・母親面接経過

本児は、平成7年4月にK幼稚園に入園した。3年保育のため年中組に入る。21人のクラスで本児を含め6人が新入園である。（年少組に所属することも検討されたが、同年齢集団の年中組となった）

表6 幼稚園での曜日別参加状況記録表の記入例

| 例                         | 日 | 月                                 | 火                  | 水                                       | 木                              | 金                  | 土  |         |
|---------------------------|---|-----------------------------------|--------------------|---|--------------------------------|--------------------|----|---------|
| • 登園する。                   |   | • 登園する。                           | • 登園する。            | • 登園する。                                 | • 登園する。                        | • 登園する。            | 週休 |         |
|                           |   | • 好きな遊びをする。                       | • 好きな遊びをする。        | • 好きな遊びをする。                             | • 好きな遊びをする。                    | • 好きな遊びをする。        |    |         |
| • 好きな遊びをする。               |   | • 体操をする。                          | • 体操をする。           | • 体操をする。                                | • 体操をする。                       | • 体操をする。           |    |         |
|                           |   | • かけっこをする。                        | • かけっこをする。         | • かけっこをする。                              | • かけっこをする。                     | • かけっこをする。         |    |         |
| 鬼ごっこ<br>縄跳び<br>砂場<br>ままごと |   | • お祈りをする。                         | • お祈りをする。          | • お祈りをする。                               | • お祈りをする。                      | • お祈りをする。          |    |         |
|                           |   | • 戸外遊びをする。                        | • クリスマスマス会の総練習をする。 | • 12月誕生日会（スライド「スライド」をみる。）               | • 体操教室（ボールを使って遊ぶ。）             | • 体操教室（ボールを使って遊ぶ。） |    |         |
| • 片付ける。                   |   | • 合奏の練習をする。                       | • 合奏の練習をする。        | • 合奏の練習をする。                             | • 合奏の練習をする。                    | • 合奏の練習をする。        |    |         |
|                           |   | • 音楽劇の練習をする。                      | • 音楽劇の練習をする。       | • 音楽劇の練習をする。                            | • 音楽劇の練習をする。                   | • 音楽劇の練習をする。       |    |         |
| • 弁当を食べる。                 |   | • 弁当を食べる。                         | • 弁当を食べる。          | • 弁当を食べる。                               | • 弁当を食べる。                      | • 弁当を食べる。          |    |         |
|                           |   | • 降園する。                           | • 降園する。            | • 降園する。                                 | • 降園する。                        | • 降園する。            |    |         |
| 1日の主な出来事                  |   | 着替えに手間とり1人だけ遅れてかけっこしたのが笑顔でよく頑張った。 | 劇のお遊戯を自分から進んでした。   | 太鼓橋に挑戦するが、1段上がったところまで断念し「もういい」と離れてしまった。 | ボール遊びを染みずいぶん動きもよくなってドッチボール大好き。 | （おむすび献金）をささげる。     |    | 1週間の参加率 |
|                           |   | 7/7                               | 5/5                | 5/5                                     | 7/7                            | 7/7                |    |         |
| 1日の参加率                    |   | 7/7                               | 5/5                | 5/5                                     | 7/7                            | 7/7                | /  | 31/31   |

両親は幼稚園での適応について心配していたが、7月の夏休みまでには次第に集団生活に慣れてきて、友達関係も比較的うまくつくれるようになり、ひとまず安心したとのこと。

体操の時間と交通安全指導の時間、何をしていたかわからず、立ったままになるそうである。プールの時間は、本児は、好きだそうである。

本児の言葉の発達に対しても、両親は遅れを気にして、小学校のことばの教室に連れて行っている。当相談室での会話で、助詞が付くようになったことなどの情報を提供して、発達が順調であることを伝えて、過度の不安を持たないように助言した。

本児に以前見られた「吐いたり、ボーとする症状」を両親はかなり気にしていたが、5月と6月に1度ずつ現れた。しかし、その後は症状が出ないので安心している。服薬は続けている。脳波や血液検査など医学的な問題には敏感である。

7月に幼稚園で友だちと話ができるようになったそうである。「大きくなったらコックさんになる」、「チャーハンつくる」という発話があった。

9月14日に相談室スタッフが、K幼稚園を訪問した。園長先生、担任教諭と面会して言葉の発達が著しいこと、挨拶ができていること、友だちの輪に入っていることなどを聞く。

12月にはレット症候群ではないかと気にしていた。親戚の者に言われてびっくりしたとのことなので、そのことの心配はないことを伝えた。病院の検査などについては、調べてもらって安心できる気持ちを共感して支持した。

12月の面接で一応の終結とした。ことばの発達が順調であり、幼稚園での集団生活にも適応し、8ヶ月間活動参加率100%であり、生活の基本的習慣が自立していることから、プレイルームでの指導の目的は達成できたと判断したからである。また、両親の過度な不安は軽減し、とくに母親の初期の自律神経失調の症状なども消失し、父親と良い協力関係で、本児への適切な対応ができると考えられたから、今後いつでも相談に応じることを伝えて終結した。

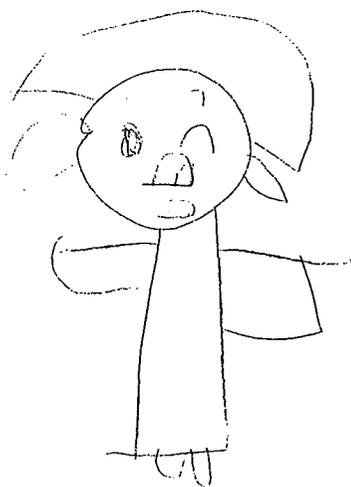
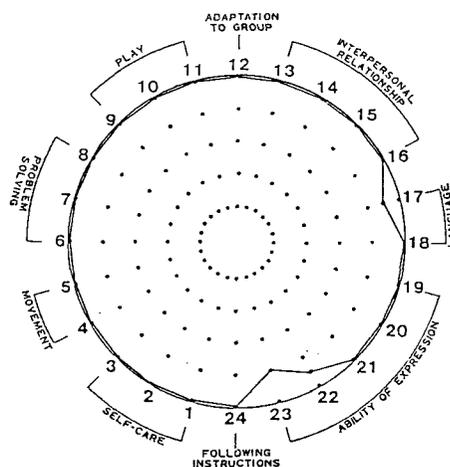


図5 A.T.児の描出画(DAM)  
平成8年3月9日



平成8年3月9日

図6 A.T.児の発達状況  
(3月9日実施T-CLAC)

### 3) 予後指導

平成8年3月9日、本児、父親、母親、兄で当相談室に来室した。本児に対しては、DAMが実施された。本児が、表出した人物画を図5に示す。IQは、112であった。田中ビネー式知能検査の実施が試みられたが、着席時間が、持続せず実施不能であった。第3回目のT-CLACが、実施された。結果は、図6に示す。前回と比較してかなりの向上がみられ年齢相応の発達を確認した。

幼稚園には、嫌がらずに登園している。2、3月の活動参加率は、100%であった。運動系の動作には、ついていけないことがある。注意力が散漫になり、体操は、部分的に先生が手伝っていることもあるようであるが、幼稚園の集団生活は、全般的に順調である。面接は、1時間の内、最初の40分を母親のみと面接し、残りの20分を父親と兄が同席して行われた。両親の養育態度は、安定していると感じられた。T-CLACとDAMの結果が、両親に伝えられ安心した様子であった。

## 考 察

### 1) 本児の診断と評価について

前述のように、本学相談室は本児に対して、軽度の発達遅滞を示し自閉性障害というほどの顕著な障害ではないことから、「特定不能の広汎性発達障害」との見解をとっている。本来、T-CLACは、自閉症児の評価に用いられるものである。広範囲の領域の発達水準及び自閉症状の改善をチェックでき、また治療プログラムと適合していることから適用したが、本ケースにおいては、参考という位置づけになる。

本児は、平成7年1月に児童相談所において知能検査を実施している。本相談室においても田中ビネー検査を試みたが。実施中、本児の着席を維持させることが困難であった。そこで、DAMを導入した。本テストは、実施時間5分程度であり、幼児の表出しやすい人物画による動作性知能の検査である。動作性知能の測定と2回の描画の変化による評価という点で、このテストの適用は効果的であったといえよう。

本児の幼稚園での状況に関する情報は、「幼稚園での曜日別参加状況記録表」に担任教諭が記録するよう依頼した。項目は、月日、曜日別に園での活動を1単位とし1日の参加率を集計した。また、その日の園での活動で特に必要な場合は、連絡事項を記述してもらった。この表は、担任から母親に渡され、セッション時に持参され、その表をもとに面接が進められた。このような客観的な尺度を使用したことによって、本児の状況が明確になった。また、母親、幼稚園教諭、当相談室という三者が連携をとりやすかったといえよう。

### 2) 幼稚園入園以前の指導について

平成7年4月から平成8年3月まで、本児は、風邪による欠席を除いて、活動参加率100%で

あった。特に幼稚園入園直後の本児の環境の変化に対してしぶりの言語反応がみられたものの順調に登園が可能であったことは、入園以前の指導が適切であったことを示している。ミニマム・エセンシャルズの形成、不適切行動の消去、きめ細かな面接による母親の精神的安定の要因が重要であったといえよう。また、幼稚園の状況要因を考慮して、幼少女児のセッション参加により、より幼稚園場面に近い形態のセッションの実施であったこと、さらにこの事態で、本児の好む絵カード、カラーリング、ママゴトセットの課題が行われ、来室頻度、時間が増加し強化刺激として機能したことも重要な要因であったといえよう。

### 3) 登園後の指導について

訓練開始時（平成7年5月）と予後指導時（平成8年3月）のT-CLACを比較すると身辺自立領域、課題解決領域、対人関係領域等で著しい変化が示されている。前述の各セッションの治療変数の変化が、総合的にT-CLACや活動参加率100%に関連しているといえよう。

しかしながら、本ケースの反省点としてT-CLAC、活動参加率の評価はおこなわれたが、各セッションの目標の評価は厳密に行われていない点が挙げられよう。

また、運動会の全員で行う体操場面での体操の習得が、今後の課題となった。T-CLACの動作模倣は、当初から3段階であった。担任の援助もあり運動会の練習において徐々に参加できるようになったが、早いリズムの動作模倣事態での本児向きにモデルをだしている人と後ろ向きにモデルをだしている人との弁別の問題である可能性が高いが、必要があれば実際場面を観察して援助する必要があるといえよう。

本学相談室における本児への指導は、以上のように本児の全生活上においての変容を狙ったものであった。本児のこのような変容には、日々、本児とかわられた幼稚園教諭の対処が大きく関係しているといえよう。したがって、両親の幼稚園選択は、適切であったといえよう。

### 4) 母親の不安への対処

本児の母親に対してセッションと並行する形態で面接が設定されていた。内容は、面接担当者と母親、または父親同席の面接、ワンウェイミラーからの治療担当者の指導観察と面接担当者による指導助言であった。母親からの言語報告であるが、前向きな発言がみられた点から育児への不安は、ある程度改善されたといえよう。客観的事実として、第三児の出産、セッションへの父親の同席、客観的な事実のフィードバック、ワンウェイミラーからの母親のセッション観察、家庭内の状況として、夫が、勤務していた会社をやめて祖父母宅に同居し自営業を営むことによって父親が、子供に接する時間が増加したことなどである。したがって、母親は、出産不安の解消、長男を実質的に養育した父親との共同育児時間の増加、セッションによる幼児のかかわり方の行動観察による習得が総合的な効果を挙げたものといえよう。特に母親は、生育史の情報によると第1子の時には、出産後の育児は、体調不良のため、ほとんど行えず父親が代換していた。これらのことを考慮しても未学習であった母親の育児に関する知識、実際のかかわり方の指導が効果

的であったといえよう。

幼稚園教諭報告にも母親のこの1年の変化に驚かれていた記述があった。

#### 5) 今後の課題

予後指導において、本児の体操場面における親の対処が聞かれた。父親の積極的に問題を解決しようとする姿勢がみられた。

したがって、今年度、運動会にもしこの点が改善されていなければ、この点に関するアドバイスが必要といえよう。また、評価のポイントとして母親が、自分自ら傍観者の態度、発言ではなく子供とかかわっていくかという点であろう。

この目的のために、現時点で養育の中心である父親が、母親に子供を養育する方法を無理なく習得させつつ、母親に養育を徐々に担当させていくことが必要となろう。したがって、この見立てのタイミングが必要となろう。

現在、本児の登園は安定し、T-CLACによると就学可能な基準に達している。今後の幼稚園の様々な活動において、また、新たな行動レパトリーが必要とされる可能性がある。今後もフォローアップ活動を継続する必要がある。

#### 附 記

事例として掲載を承諾くださいましたご両親に感謝いたします。また、本児の指導に協力していただきました海星幼稚園浜本文子園長、竹田由紀教諭に感謝いたします。また、本セッションにいわゆる peer として参加していただいた園山頼子さん、賛美さん、その他協力していただいた本学幼児教育科学生、山崎順平、赤木紀子、森井哉子、安部ひかるの皆さんに感謝いたします。

本論文の作成にあたって、指導における筆者それぞれの役割ごとに記述を分担した。幼稚園入園前の指導は、園山、熊代が、親面接は平松がおこなった。この部分の一部は、園山(1995a)として第16回臨床心理士研修会で発表された。幼稚園入園後の指導は熊代、親面接は平松が行い小野は両方を担当した。全体は小野がまとめた。

## 引 用 文 献

- 1) 小林重雄(1976)：いわゆる自閉症児の症状形成に関する考察。東京教育大学教育学部紀要, 22, 145-151.
- 2) 小林重雄(1977a)：自閉症児の行動変容—クリニックと他機関との関係に関する諸問題—。行動療法研究, 2, 27-33.
- 3) 小林重雄(1977b)：グッドイナフ人物画知能検査ハンドブック。三京房。
- 4) 小林重雄(1980)：自閉症—その治療教育システム—。岩崎学術出版社。
- 5) 望月昭(1988)：福祉実践の方法論としての行動分析学—社会福祉と心理学の新しい関係—。

社会福祉学, 30 (2), 64-84.

- 6) 志賀利一 (1990) : 応用行動分析のもう一つの流れー地域社会に根ざした教育方法ー. 特殊教育学研究, 28 (1), 33-40.
- 7) 園山繁樹・小林重雄 (1994) : 相互行動心理学と行動分析学における文脈的視座: 行動療法発展への示唆. 心身障害学研究 (筑波大学), 18, 179-190.
- 8) 園山繁樹 (1995a) 自閉的傾向を伴う4歳女兒の面接指導. 第16回臨床心理士研修会資料.